

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 清水小 学校

厚木市教育委員会の基本目標 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 笠 昇

学校教育目標

学校経営の方針

自ら学び豊かな心とたくましく生きる力を持った児童の育成

○多様性を認め合い、誰一人取り残さない個別最適な学びの実現を図るとともに、地域との協働による教育活動を通して、持続可能な社会づくりに貢献する。
○ISSの取組を通して、持続可能な社会の担い手としての自覚や資質を育む。

今年度の重点目標

〈学校経営の4本柱～2023しみずっ子生き生きプラン〉

- 学ぶ力の育成 : 新たな教育課程を踏まえ魅力ある教育課程を実施し、主体的に学ぶ力の育成と確かな学力の向上をめざします。
- 実践力の育成 : 互いのよさや可能性を発揮させながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、自ら考え行動する力の育成をめざします。
- 豊かな心の育成 : 自他の命を大切にし、互いのよさを認め合う心情を育て、居心地の良い学級づくりに努めます。
- 安心安全な環境づくり・元気な体の育成 : 学校教育環境を整えるとともに、命を大切にし、安心・安全な社会の担い手としての素地を培います。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「学ぶ力の育成」について、主体的に学ぶ意欲を育て、学習指導の充実に努め、基礎基本の定着を図る。	1	・わかる・できる授業づくり ・指導方法の工夫改善 ・主体的で対話的な授業展開 ・地域の教育力の活用 ・幼保・中との連携の推進	保護者からは、学校での授業に対し「学校の勉強をよく理解している」と8割の評価を得た。しかし、2割のご家庭では「理解できていない」との結果が出た。 校内研究「みんながわかる できるよこび～タブレットを使った学習指導の工夫」で指導改善に努めた。タブレットを使うことで互いの考えや意見を共有し学習意欲が上がった。	児童の実態を的確に捉え、わかりやすい授業ができるように学年で教材研究をしたり、校内で取り組んでいる授業改善の研究を進めたりして、よりよい授業の在り方を継続して考えていく。 さらに、児童が主体的に活動できる教育課程を編成し、より児童一人一人の様子を見取りながら、授業を進めるように引き続き取り組んでいく。
「実践力の育成」について、学校生活の中で自ら考え行動する力の育成を図る。	3	・自主的・実践的な態度の育成 ・望ましい集団活動による、よりよい人間関係づくりの促進 ・目標・実践・振り返りで学級づくり ・児童が主役の学校生活の推進	・学校生活をより良いものにし児童が主体的に活動できるよう、係や実行委員などの役割を自覚させ、互いに認め合い高め合える集団を育てることを目指した。活動の振り返りを大切にする中で、児童は見通しを持ち、次に生かしてつなげることができた。	・徐々に異学年交流や縦割り活動を取り入れていき主体的に活動させることを通して、児童の人間関係形成、社会参画、自己実現に向けて、集団や社会の形成者としての見方・考え方を育てていく。
「豊かな心の育成」について、自他を大切にする心を育て、一人一人の教育的ニーズに適した支援に努める。	2	・道徳教育・人権教育の充実 ・自他を認め合う教育の充実 ・いじめ・暴力等の未然防止 ・児童支援体制の充実 ・情報モラル教育の充実	学校では、友だちを思いやり、一人一人の命を大切にする子どもたちを育てたいと考えている。また、「生活アンケート」、児童向けの「学校づくりアンケート」を行い、児童の悩みや困りごとなどを早期発見し、担任や学年、学校でチームとして早期解決することを目指し、取り組んだ。 ・「命の授業」を発達段階に合わせて系統的に実施した。	・道徳の授業を扇の要とした心を育む取組や児童が主体的に取り組む人権週間に重点を置き、豊かな心の育成をさらに充実させる。また、家庭や地域と連携して豊かな心を育てる教育活動を推進する。
「安心安全・元気な体」について、心身ともに安心・安全な学校づくりを推進する。	1・2・3	・安心安全な教育環境の整備 ・健康な体づくり・心の居場所づくり ・交通安全指導の充実 ・防災・防犯教育の充実 ・危機回避能力の育成	自転車のヘルメットの着用率が少しずつ減ってきている。 コロナ禍では実施できなかった休み時間の避難訓練を今年度実施することができた。 ISS活動を基盤にしなが、児童は安心・安全な生活をつくろうと活動することができた。	自転車のヘルメット着用は、児童の命を守るため、今後も家庭、学校、地域で連携して取り組んでいく。 児童の主体的な活動を中心とした安心安全の取組を継続して実施していく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見
令和7年度より地域学校協働活動が厚木市を上げて始まる。清水小学校区におきましては他の地域に先立ってモデル地区として活動し始めている。本件は、学校にお任せ、期待するだけでなく、公民館を中心に地域の人たちと共に子供たちを見守っていくことが大事であること、地域の者にとっても前向きに取り組んでいかねばならないと改めて思うところである。
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針
学校教育目標達成に向けて、教職員一丸となって教育活動の展開に努めた。今年度も、様々な教育活動を見直し、目的を押さえながら工夫して実施したが、何が本当に必要なのかを精選するよい機会になった。これを今後の計画に生かし、コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に推進して地域との協働で児童を見守り育てていく。